

広げよう！優良実践の輪！

～平成29年度 優良実践校の取組～

取組 5

地域との連携協働による、落ち着いたはじめのある
学校生活の実現と学力向上に向けた取組

倉敷市立連島東小学校

1 はじめに

本校は、県南部に位置し、児童数約430名の中規模校です。これまで生徒指導上の問題などにより学級・学年が落ち着かない状況が続いていました。また、学力面でも、長年にわたって全国学力・学習状況調査の結果が全国平均を下回るなどの課題がありました。そこで、次の3点をコンセプトにして(図①)、地域と連携協働して教育活動を進めています。

2 重点的な取組

(1) 「めざせ！あいさつ日本」

「めざせ！あいさつ日本」を合言葉に、地域の方々と一緒に、おはようハイタッチ運動に取り組んでいます。地域の方々にあいさつをほめられると、「連東ですから」と胸を張って応える児童が増えてきました。また、

学校で始まったあいさつ運動は、町を挙げての取組に広がっています。

(2) ボランティアの活用

本校は、平成29年度から地域学校協働本部を立ち上げて、積極的に授業や校内環境整備等に学校支援ボランティアの活用を

H29 連東小 教育の重点

**I 様々な人がかかわる
開かれた学校 (連携・協働)**

II かかわりを広げ、心の育成

**III はじめのある学校生活と
学ぶ意欲、確かな学力**

図①

進めています。放課後サポート学習の支援、校外学習の引率、体力テストの測定補助、花壇整備、芝刈り等、様々な場面で学校支援ボランティアの方々にお世話になっています。



(3) OJT研修の日常化

本校では、国語科・体育科・総合的な学習の時間の三本柱で校内研究に取り組んでいます。日々の授業改善につながる校内研究になるように、隔週に研修日を設け、学年を越え同じ教科

の仲間が集まる三部会を行っています。この三部会では、よりよい授業を目指して、教材研究・模擬授業・実技研修などに取り組んでいます。

(4) 主体的・協働的な児童の学びをめざして

毎時間の授業の中に話し合い活動を位置づけたり、タブレットを積極的に活用したりして、児童が主体的・協働的に学ぶことができるように工夫しています。

3 おわりに

本校では、こうした取組により、落ち着いた学校生活が実現できるようになりました。また、児童の授業に対する意識は大きく変わり、主体的・対話的な学び、そして探究的な学びができてきていると思っている児童が増えました。(児童意識調査より)

今後も、地域との連携協働を進めていくとともに、学び合う教師集団、そして、学級集団づくりを進めていきたいと思えます。

(教頭 佐野 薫)

協働的な校内研修による 授業改善の取組

勝央町立勝央中学校

1 はじめに

数年前、本校は不登校など生徒指導の課題が山積していました。そこで、不登校対策として学校全体で「ぴあっこ育成プロジェクト」を立ち上げました。全職員は「協同学習部会」「ピアサポート部会」「SEL部会」の3部会に所属し、組織的に研修に取り組んできました。3年間の取組で生徒指導問題・不登校が減少しました。しかし、課題として学力向上、大量の教員の異動への対応が求められるようになりました。

※SEL：社会性と情動の学習

2 取組

(1) 継続できる組織作り

校務分掌と3部会が連携するように、SEL部会に学級活動、ピアサポート部会に生徒会、協



公開授業

(2) 授業改善の校内研修

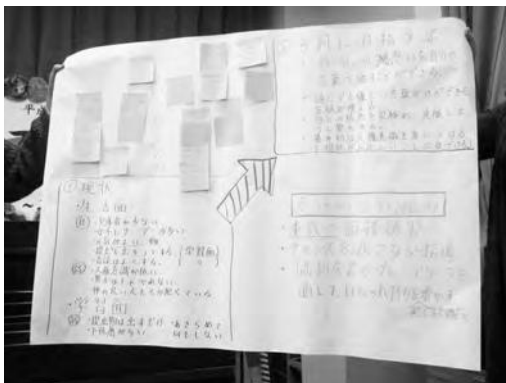
同学習部会に学力担当者が入り、校内の組織を一本化。「人材育成」を合言葉にチームで校外の研修に積極的に参加。新しい職員が本校の目指す方向を共有できることを大切にしました。

協同学習部会・研究主任が中心となり、公開授業後の校内研修の進め方を工夫。助言者の講

義形式を変更し、個人、グループ①、グループ②、講師、個人で考える時間を設定。教職員が協働的・主体的に参加できるようにしました。

(3) ベクトル合わせの校内研修

学校目標をもとに、学年ごとに生徒の実態を分析し「目指す子どもの姿」を全教職員で考えます。学年末に学年・学校全体で目指すゴールを考える。11月に全体研修で修正、年度末に次年度のめざす姿を考え、全教職員で共有します。



目指す子どもの姿を考える研修

(4) 年間計画を持った補充学習

協同学習部会と学力担当者が学力の課題を分析し、基礎基本

の力と反復学習時間の不足があげられました。そこで、全校放課後補充学習を計画。教科主任を中心に、3年間の見直しを持った年間計画を作成。継続的、計画的な内容で国語と数学の放課後学習を実施しました。

3 おわりに

「ぴあっこ育成プロジェクト」を立ち上げた教職員から、新しい教職員集団へと変化してきている本校。まず、生徒の現状分析を大切にし、確認した課題を全教職員で共通理解しました。次に、継続できるものは活用し、役割を明確にしました。そして、現状の課題に対してできることから工夫して、取り組んできました。学力面でも少しずつ成果がでてきています。

今後も大量の教職員の異動が予想されます。校内研修を切り口に、教職員が互いにコミュニケーションをとる時間を確保することで課題を共有して、生徒も職員も笑顔の学校を目指していきたいと考えます。

(校長 光井 一恵)